

教 師 ノ ー ト

日付	2012年 8月19日
単元	基本的な教理・3
テーマ	礼拝
タイトル	礼拝とは何でしょうか
テキスト	ローマ12:1-2
参照箇所	創世記 1:27、ヨハネ1:12、ヨハネ 4:22-26、ローマ1:21、ローマ8:15、 ローマ12:1-2、ヘブル 13:15-16
暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい)	ローマ12:1b or ヨハネ4:24

AG 日曜学校教案参照箇所 (リンクできます)

□導入

「学校に行った時、あなたのことが大好きなお友達が、喜んで待っていてくれたら、うれしいですね。神様はあなたのことをその様に、いつも見ておられます。礼拝の時や毎日の生活で、神様とどのようにお祈りし、お交わりしたらよいかを考えてみましょう。」

☞礼拝会は日曜日に行われますが、礼拝とは毎日の神様との交わりであることを生徒たちに伝えましょう。

□ポイント1 日曜日にどのような気持ちで教会にくることを、神様は喜ばれるのでしょうか？

あなたのことを、大好きで待っていてくれる人がいたらうれしいように、神様はあなたのことが大好きで、いつも見ておられ助けて下さいます。ですからそんな神様が大好きな人を神様は喜ばれるのです。大好きな人のところには、どんなことがあっても行きたいですね。神様とお会いする礼拝会(日曜日)には、その様な気持ちで出かけることを神様は喜んでくださるのです。

☞もし礼拝会の具体的な話になったならば、「用事があっても上手く調整をして、礼拝の時間を優先する」等、優先順位を子供たちに分るようにお話ください。しかしまず教師自身が、その様に生き、神様との関係を持つことが大切です。そうすれば、形式ではない相応しい伝え方ができるでしょう。

□ポイント2 神様への賛美はどのようにしたらよいのですか

「心から喜んで賛美を歌うことを、神様は喜ばれます。なぜなら「人はうわべを見るが、主は心を見る。(1サムエル16:7)」とあるように、神様は私たちの心を見ておられるからです。ですから礼拝の賛美は、真心から感謝と喜びをもって神様に歌いましょう。」

☞低学年の生徒たちには、できるだけ単純に「神様を喜んで賛美すること」と伝えましょう。しかし高学年の生徒たちには、以下にあるような「いけにえとしての賛美」を伝え、喜ばれる賛美をすることをチャレンジしてみましょう。

「しかしもし、自分の心に悪いものがあつたら、神様にその罪を告白して赦していただきましょう。悪いものをそのままにしておくことを神様は願われません。ヘブル13:15には「私たちはキリストを通して、賛美のいけにえ、すなわち御名をたたえるくちびるの果実を、神に絶えずささげようではありませんか」とあるように、賛美はいけにえでもあるのです。いけにえは聖いものがふさわしいからです。」

☞旧約では罪のためにいけにえとして、持っている財に応じて羊や鳩や小麦粉(レビ記5章)を捧げなければなりません。いけにえは、犠牲です。新約時代にはイエス様の犠牲によって、動物等のいけにえを捧げる必要はなくなりましたが、私たちが、感謝をして捧げる賛美が「いけにえ」と書かれているのです(ヘブル13:15)。

☞ですから、気分が良いときも賛美をしますが、調子が悪かったり気分が乗らないときがあっても、神様に賛美し感謝を捧げることが大切です。その様に賛美を捧げるうちに、心が満たされ、心からの賛美を捧げることができるように神様が私たちに満たして下さるのです。

□ポイント3 毎日の生活で、神様にどのような賛美や礼拝をすることが喜ばれるのでしょうか

礼拝会や賛美を歌う時間だけでなく、神様はいつも私たちの心を見ておられるので、神様は毎日心からの賛美や礼拝をすることを願っておられます。また神様はいつも私たちを助けようとされているので、小さなことでも神様にお祈りすることを願っておられます。

ローマ12:1の「神に受け入れられる、聖い、生きた供え物」とは毎日の生活の中で捧げられるものなのです。それこそが霊的な礼拝であるといえます。そして神様と交わっていく中で、「心を新たにして自分を変えていただき(新共同訳)」何が神の喜ばれる御心かますます分るようになります。そうしてそれを実行することが、毎日神様と交わる「実」になるのです。(具体的な内容はローマ12:3-21までを読んでください)

□結論 礼拝とは神様との交わりです。毎日神様に心からの礼拝を捧げ、良いことを選びましょう。

□適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

お父さんやお母さんが子供と話しをするように、天の神様はわたしたちを子供として交わりを持つようにつくられました。ですから神様はわたしたち一人一人と毎日交わりを持つことを願っておられます。日曜の礼拝は皆が集まる日ですから、神様は特別な恵みを準備してくださっています。期待して礼拝に来ましょう。

また賛美も早く歌を覚えてしまいましょう。そして神様が聞いていらっしゃると思いながら、口先ではなく心から歌うならば神様が喜ばれる素晴らしい賛美になります。

毎日神様とお祈りすることがまだ良く分らないお友達がいたら、神様とお祈りし続ける素晴らしさ、祈りを聞いてもらえたお証などを話してあげましょう。また、まだディボーションをしていないお友達は、これをきっかけにはじめてみましょう。きっと素晴らしい神様との出会いがあることでしょう。